

県立工業技術センター研究課題評価シート【平成 25 年度】

〔追跡評価〕

No.	研究課題名	研究の概要及びその成果と活用	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
6	小型圧力センサ付試作品を用いた「製品の使いやすさ評価」に関する研究	<p>試作品に取り付けた圧力センサからの確なデータを採取しやすくするため、3D-CAD データの設計方法を検討し、3次元的に圧力データを可視化した。また、試作品を把持した際の「持ちやすさ」、「握りやすさ」について、圧力分布データと官能評価の比較により分析した。研究成果は、県内企業等との共同研究に活用した。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 既に実用に役立てており、今後の発展が期待できる。 実用的な成果が上がっている。 全産業界に必要な研究である。 圧力分布の測定法として確立されたシステムを開発しており、応用分野が広い。 研究成果を基に共同研究へ発展しており、また、新たに動的解析にも挑戦しており評価できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野での活用を期待する。例えば、スポーツ用品に応用しオリンピックに使用されるようになれば県の技術のPR効果が大きいのではないかと。 企業との連携により、ユニバーサルデザインに基づくものづくりの普及を期待する。 被験者のアンケート調査をせずに使いやすさの評価が可能なシステム開発を期待する。 適用対象製品分野を具体的に示した方がわかりやすい。 配線を減らして無線にするなどの工夫が必要である。
	生産技術部 平成 21 年度 (1 年間)			
7	吊り下げ電極による曲がり穴放電加工法の開発	<p>金属球を細導線で放電加工機の主軸に吊り下げた電極（吊り下げ電極）を使用し、汎用の放電加工機を用いた曲がり穴加工技術を考案、実証した。研究成果は、特に油圧機器の効率化への貢献が期待されたことから、油空圧を支える技術として解説論文を発表した。</p>	<p>【達成】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実用技術への進展が期待できる。 研究終了後、技術開発が大きく進展しており評価できる。 新しい加工法として成果が出ている。 当初より格段に研究が進み、実用化に近づいている。 研究成果が今後の展開に繋がっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 小径穴加工や大きな屈折角加工等の課題解決を早急に行い、実用化を期待する。 民間企業との共同研究により問題点を洗い出し、早期の技術移転を期待する。 今後の大学との共同研究成果を生かし、技術の実用化に繋がることを期待する。 加工精度の向上に取り組んでもらいたい。 正確なパスのコントロールを行えるように考えてもらいたい。
	生産技術部 平成 21 年度 (1 年間)			

No.	研究課題名	研究の概要及びその成果と活用	評価結果及び委員からのコメント	提案機関へのアドバイス
	主担当部署			
	研究期間			
8	ニホンジカの製革技術の開発 皮革工業技術支援センター 平成 21 度 (1 年間)	ニホンジカホルムアルデヒドなめしによる室内履きや小物用革の開発のほか、ニホンジカクロムなめし革の開発と手袋等の試作を行い、ニホンジカ革の有効利用の範囲を拡大した。研究成果は、県内製革企業の技術指導に活用するとともに、県民への普及を図るため、各種イベントで革製品を展示した。	【達成】 <ul style="list-style-type: none"> ニホンジカ製革技術が確立できている。 多数の県内企業と共同で研究開発を行っており、評価できる。 研究開発としては、ほぼ終了したと考える。 県内の資源の有効利用のために必要な研究開発である。 	<ul style="list-style-type: none"> 商品化への応用とエコ化等の付加価値を充実させ、さらなる普及を目指してもらいたい。 県民等消費者へのアピールとともに、原料の調達方法を確立し、早期に製品が市場に出ることを期待する。 シカ革製品がビジネスとして成り立つようなシステム開発が必要である。 今後、皮の安定供給のシステム構築が必要である。